

2021 年 9 月異業種交流会

開催日:2021 年 9 月 16 日(木) 18:00~20:20

会 場:Zoom によるオンライン会

参加者:清水(49C)、吉平(50C)、鶴岡(44M)、阿部(桂)(46 修 S)、荒居(39S)、阿部(雅)(47 修 C)、
伊藤(H15C)、関口(48 修 K)、奥山(52E)、松永(47C)、佐野(62W)、窪田(46S)、二宗(46M)
四国支部より森口、中村、瀬尾、
平塚支部(倉林)、東京支部(本間)、茨城支部(中村) 合計19名

今回は 19 名という今までの最高の参加者であった。他支部として四国支部のほかにも、関東の支部より 3 名も加わった。他の支部とも交流を深め、より広範囲での意見交換ができる事を期待して開催した。



発表者の中村さん

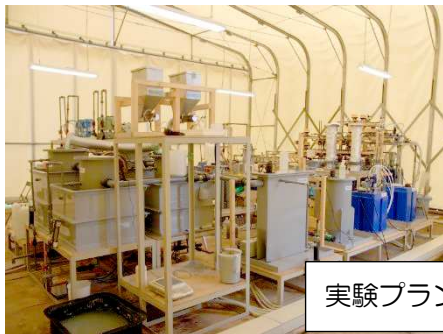
今回のミニプレゼンは、四国支部の中村さんによる「廃棄物の有効利用について」という、愛媛県立衛生研究所勤務時代に研究していたテーマの報告であった。

低炭素社会の実現に向け、バイオマスの着実な活用推進を目的に取り組んだ。

リンはあらゆる生命の構成要素であり、人間は 1 日に約 1g のリンを代謝している。またリンの産出国は特定国であり、日本は輸入に頼っている。将来リン資源不足により農業への影響等枯渇が懸念されている。

下水汚泥に高濃度のリンのあることを確認したが、汚泥焼却灰は埋め立て処分がほとんどである。この現状に目をつけ、バクテリアを使いリンを溶出させ、回収する方法を研究した。

リン回収の基本的検討から始め、実用的な方法、ミニプラントによる実用性の検討まで実施した。この研究により、実用化に向けての今後の新たな方向性を明らかにすることができた。



実験プラント

同様にバクテリアを活用し、製紙スラッジ焼却灰中のアルミが凝集剤として利用できることがわかった。

発表後は参加者から、リンの大切さや環境への取り組みの重要さの再認識ができたとの声もあった。また、現役時代の自分の分野にも照らし合わせ、下水処理だけでなく他産業までの広い分野への展開期待もあった。

このプレゼンの後は、中村さんの地元「松山」の観光案内を写真と共に楽しませてくれた。路面電車が走り、道後温泉や松山城が市内にあり、観光に



人気であるが、昨今のコロナの影響は大きい。松山のシンボル道後温泉本館は、営業しながら 2024 年までの保存修理中であり、通常では見られない姿や各種のイベント等が実施されている。

正岡子規を始め著名な俳人を輩出し、俳句の郷とも呼ばれている。

今日は研究発表と観光案内という分野の違う二つの話もあり、時間も延長する中で参加者も積極的に話に入り、十分な交流が出来た。コロナの心配がなくなり、道後温泉の修理が完了した松山をゆっくり観光してみたいものである。

幹事のつぶやき一言

今回積極的に他支部にも声がけし、関東地区支部の方も参加していただいた。参加者支部の活動活性化のヒントにでもなれば幸いです。(幹事 二宗 46M)